

2014 宜蘭國際童玩藝術節參加

2014 YILAN INTERNATIONAL CHILDREN'S FOLKLORE & FOLKGAME FESTIVAL

～釧路“発”日本の「今」を台湾へ～

釧路子どもミュージカルキッズロケット

代表 金安 潤子

はじめに

宜蘭國際童玩藝術節は、子ども達が夏休みに入る7月から8月にかけて台湾宜蘭県において年に一度開催されている世界各地の文化交流を行う国際フェスティバルです。

何でも便利なら良いという方向に走っている現代において、自然のものの価値を知る、自分で触って自分で体験する、自分が参加するということはとても大切なことです。子どもたちにはみんな夢があって、未来の宝。大人たちもかつては自分が子供だったことを思い出し、人と人の関係をもっと近くしていくという目的のもとに開催されています。

宜蘭には日本人が残した文化も大切にされていて、特に羅東には、歴史的建造物もたくさんあります。西郷隆盛の息子さんは、宜蘭の第一代廳長(当時の県長)を務め、記念碑もあります。

そうした親日色豊かな宜蘭縣の冬山河親水公園において、今年は7月5日から8月24日までの間の開催でした。毎年、世界各国・各地から子ども達が参加しており、今年は、ウクライナ・ブルガリア・インド・インドネシア・日本・韓国・リトアニア・メキシコ・モンゴル・パレスチナ・ペルー・フィリピン・ロシア・タヒチ・サハ共和国・タイ・チュニジア・トルコそして台湾の19ヶ国40団体(日本からは3団体)が参加しました。

2011年に次いで2度目の参加となるキッズロケットは、フェスティバル開催期間中の8月5日から9日までの5日間に40分のステージを5回、主催者が企画した宜蘭市内観光や宜蘭の文化に触れ、また世界各地からの参加者と様々な交流の機会を楽しみました。また、宜蘭縣政府へ表敬訪問

し、秘書長の陳氏はじめマスコミ関係者の前でもパフォーマンスの披露をしました。

短い滞在期間ではありましたが、参加したメンバーはそれぞれに素晴らしい体験をし、大変意義あるものとなりました。

釧路子どもミュージカルキッズロケットは、限らない可能性を秘めている子ども達に「ミュージカル」を通じて友情や連帯感を芽生えさせると同時に、地域の文化向上に寄与することを目的とし1997年発足。以来、ミュージカル定期公演やクリスマスコンサートをはじめ、多くの地域のイベントへの参加などを中心に活動しています。観客からの応援をパワーに変え、イキイキとしたライブ感が人気のようで、幸いにも出演要請の声が多くかかり、忙しい活動となっておりますが、そのために学校のない日はミュージカルの日と土日祝祭日そして夏冬休みを利用して、少し厳しく、そしてとっても楽しい練習に励んでいます。

以前、常陸宮殿下・妃殿下をお招きしての全国野鳥保護の集い(釧路市開催)において披露したミニミュージカルは、ご覧いただいた両殿下はじめ文科省関係者から高い評価をいただきました。また、過去に札幌公演を行なった際には、関係者より「子供たちのこの種の団体としては間違いなくトップクラス」との評価もいただいております。

小学1年生から中学生まで、年齢も学校も違う子ども達がひとつの舞台を創り上げるという目的・目標に向かっていく過程において、思いやりや社会性・倫理観や正義感、そして感動する心など豊かな人間性の育成など、子供たちにとってとても大切な教育の場となっていることを自負して

います。

こうしたキッズロケットがなぜ宜蘭國際童玩藝術節へ参加することになったのか…。

台湾建国 100 年の節目（辛亥革命から 100 年）の年であった 2011 年、友好の記念に釧路市生まれのタンチョウが台北市立動物園に贈られ、そうした縁もあり、宜蘭県知事と釧路市長が懇談をしました。その際に、宜蘭県側から強く釧路市の子どもの文化団体の童玩藝術節参加が求められ、釧路地域と台湾との各層での交流発展のため、翌 2012 年、キッズロケット結成 15 周年という節目の年に童玩藝術節初参加へととなりました。

2 年前、初めての参加となる童玩藝術節は、参加する子ども達の多くが初めて親元を離れ、初め

てパスポートをもつての海外旅行。不安でないはずがありません。加えて、私たちのパフォーマンスが果たして台湾で受け入れられるのか否かも不安材料でした。でもきめ細やかなスタッフの気遣いや日本では味わったことのない子ども達のパフォーマンスへの大きな熱い声援で、すぐにそれらの不安は消え去りました。素晴らしい数日間を過ごした子ども達からの「また参加したい！」の声は、しごく当然のことであり、今年再びの参加となった次第です。

今年は特に、子ども達にとって貴重な体験機会を与えると共に、次世代の国際交流を担う人材育成を行うという目的のもとに結成された『夏休み釧路こども台湾訪問団』として、國際童玩節への参加のみならず台北市立動物園 100 周年のお祝い、そして釧路の PR という多くの任務を担っての訪台となりました。

夏休み釧路こども台湾訪問団 日程

- 8月4日（月）
札幌千歳空港より台湾・桃園空港へ。到着後、宿舎となる宜蘭国立大学へ移動
- 8月5日（火）
親水公園にてリハーサル後、パフォーマンス本番
- 8月6日（水）
宜蘭国立大学にて粘土人形作り（文化体験）、パフォーマンス本番、親水公園にて水遊び、ウェルカムパーティー参加
- 8月7日（木）
宜蘭縣立文化國民中學にて文化交流、パフォーマンス本番、宜蘭政府表敬、羅東夜市観光
- 8月8日（金）
白米村にて下駄・絵描き・工芸品などの手作り体験、蘇澳冷泉、国立伝統芸術センターなどを観光
- 8月9日（土）
2度のパフォーマンス、最終パフォーマンス後セレモニー、日本料理の紹介とゲームなどで楽しむ交流会
- 8月10日（日）
送別式後、台北市立動物園へ。台北市立動物園開演 100 周年記念セレモニー並びに釧路 PR
- 8月11日（月）
帰国

8月4日（月）

早朝、バスで釧路を出発。11 時間後に到着した台北桃園空港では、宜蘭童玩節実行委員会の皆様に熱いお出迎えをいただきました。キッズロケットとして 2 度目の台湾ですが、もちろん初めてのメンバーもいます。初めてパスポートをもつて訪れる外国となる『台湾』。さあ、いよいよです！みんな張り切ってます！

宜蘭までのバスの中ではさっそく軽食が配られました。でもこれを食べてはダメ…。前回の経験



ボランティアスタッフさんによる熱烈的な歓迎を受けました。

から学習したことですが、宿舎となる国立宜蘭大学学生宿舎に到着後すぐに改めて晩ご飯となります。この日の夕食は20時から始まりました。日本とは1時間の時差ですから、21時からの夕食。子ども達のなかにはいつもは寝ている子もいるはず。でも興奮冷めやらぬ状態で、食事を楽しみました。

滞在中、出演で外に出ない限りは学生宿舎のカフェテリアで食事をします。各国からの参加者に対応すべく、メニューも豊富で美味しいんです。3度の食事以外にアフタヌーンティー（おやつ）も用意されていて、子ども達は大喜びでした。

この宿舎の正面玄関には参加している国の国旗が掲げられていて、オリンピックでいう選手村の感じ。お部屋は4人部屋。なかなか快適です。

8月5日（火）

いよいよ出演1日目。会場は冬山河親水公園内の特設ステージです。ここで約40分間のパフォーマンス。今回のプログラムの最初は浴衣で『台湾国歌』斉唱から始めました。お客様そしてスタッフの皆さん、驚きと共に大絶賛でした。決して忘れてはいけない東日本大震災時の台湾からの多大なる援助に対する感謝と敬意を表しての国歌斉唱でした。

前半のステージは、日本のわらべ歌「ずいずいずっころぼし」や「とおりゃんせ」など遊びを交えての紹介後、釧路市と姉妹都市である鳥取の傘踊りなど日本文化を披露。

そしてアイヌの衣装をまとっての舞踊や歌唱を披露しました。実は北海道のアイヌと宜蘭のタイヤル族には、狩猟・採集民族としての共通点があるほか、文化面でも類似性が多くあります。例えば、タイヤル族にもムックリに似た口琴があり、衣服の紋様なども似ているのです。大変興味を持っていただけたことは言うまでもありません。

後半はがらりと雰囲気を変えて日本のアニメソ



プログラムの最初は台湾国歌斉唱



鳥取傘踊り

ングを中心としたステージです。台湾で人気のアニメソングもあったようで、子ども達の歌って踊るプログラムには会場一体となって盛り上がりいただきました。

台湾民謡 Dew Dew Dong の披露の際は、会場割れんばかりの歓声でした。Dew Dew Dong は、高い山々に囲まれ交通が不便だった宜蘭地方に初めて鉄道が開通した時、汽車がトンネルを通る様子とその時の水滴が落ちトンネル内に響き渡る音を盛り込んだ民謡だそうです。汽車の歌ということで、「汽車ぽっぽ」を日本語、「線路は続くよどこまでも」を英語、「Dew Dew Dong」は台湾語でというメドレーに仕立てました。

ステージ最後は、釧路をアピールできるハッピーを着ての「YOSAKOIソーラン」です。YOSAKOIソーランは、高知県の「よさこい祭り」



日本で人気のアニメソングは台湾でも大人気



北海道釧路のはっぴに大漁旗、日本の「祭り」を披露

をルーツに、北海道民謡「ソーラン節」をミックスして誕生したものです。漁業の街釧路そして北海道を印象づけるのに大いに役立ったと思います。

36度の猛暑の中、汗だくでパフォーマンスする子ども達。頑張れたのはお客様の拍手と歓声のおかげです。1日目のパフォーマンス大成功に終了しました。まずはホッと一安心。

8月6日（水）

このフェスティバルでは、舞台での出演以外に伝統芸術の体験も用意されています。今日の出演は午後からということで、午前中は文化体験。宿舎の地下でカラフルな小麦粉粘土で可愛いお人形作りです。先生の作られるお人形は可愛いのです

が、細かい作業でなかなかうまくいきません。先生に手伝っていただきながらなんとか形になったという感じでしょうか。

午後の本番終了後には子ども達お待ちかねの水遊び。北海道釧路市は8月の平均気温が約21℃の日本一涼しい所。涼しすぎて（寒くて？）釧路の子ども達は、地元でなかなか水遊びができません。会場となっている『親水公園』はその名の通り、ウォーターパーク。人と水の自然なつながりを求めながら「屋外水の博物館」を目指して造られ、スポーツやレジャーなどが楽しめるように整備されています。普段水遊びができない釧路の子ども達、思いっきり楽しみました。

そしてこの日の夜は、その時点で参加している全チームのウェルカムパーティー。宿舎近隣の大きな公園で、参加者とボランティアスタッフ全員集合の熱気に満ちあふれたものすごいパーティーでした。一体何人が集っていたのか見当もつきません。そんな中で、どの参加者よりも幼く小さいと思われるキッズロケットの子ども達、物怖じしてオドオドしているばかりかと思いきや、なんと言葉の壁を飛び越えて、隣のテーブルの方達と踊り出し、最終的には参加者全員で作る大きな幾つもの輪の中で思いっきり踊っていました。様々な国からの参加者です。世界各地の歴史、伝統、文化が生み出した音楽やダンスには、地域や文化にそれぞれの特性があるはずなのに、こうして様々な民族がひとつになれる状況に直面すると「音楽は世界共通の表現力」と思わざるを得ません。

8月7日（木）

午前中は宜蘭縣立文化國民中學で文化交流です。この学校のリコーダーサークルのレベルは大変高く、宜蘭県および国内の全国学生音楽コンテストに出場し、常に優秀な成績を取っているとのこと。2009年には日本のリコーダーコンテストで最高賞の「金賞・花村賞」を受賞しています。



宜蘭縣立文化國民中學の皆さんと

そんな素晴らしい演奏を生で聴かせていただけるなんてとても光栄。本当に素晴らしい演奏で、感動的なひとときを過ごしました。キッズロケットのパフォーマンスは、鳥取傘踊りと YOSAKOI ソーラン。日本の伝統的な美しい傘には興味津々の様子で、パフォーマンス披露後には文化中學の皆さんに実際に傘を持ってもらい傘踊りを体験していただきました。

引き続いての交流ティータイムでは、新鮮で美味しい地元の果物やお料理を堪能させていただき、さらに伝統的なお菓子作りも体験させていただきました。

この日も 36℃ の猛暑のなか、いつもの通り親水公園での 40 分のパフォーマンスをこなし、宜蘭縣政府へ表敬訪問です。時間に余裕はないものの日本的な装いだと思います、パフォーマンスを終えた直後に全員再び浴衣に着替え、バスに飛び乗り移動。急なご公務で残念ながら林聰賢縣知事にはお目にかかれませんでした。秘書長の陳さんといろいろお話しさせていただきました。釧路市長からの親書をお預かりしていましたので、それをご披露しました。その親書には、キッズロケットが童玩藝術節に参加するきっかけとなった 3 年前の宜蘭縣訪問のこと、そしてこの間に台湾の皆さんとの交流が一層深まり、宜蘭縣南澳群金岳國民小學校の子ども達が釧路市を訪れ、多くの市民にタイ



宜蘭縣政府で

ヤル族の民族舞踊を披露して下さったことへのお礼がしたためられていました。そして今回のキッズロケットの宜蘭縣訪問が思い出深いものとなるように支援いただきたい旨のお願いもあり、釧路市がこのたびの訪問を応援してくれていることを改めて実感いたしました。ここ宜蘭縣政府においても、日本の歌、傘踊り、台湾民謡 DewDewDong など 10 分程度のパフォーマンスを披露しご出席の皆様大変喜んでいただきました。中には日本語が堪能な方もいらっしゃり、日本のわらべ歌を知っていると私達に聞かせて下さいました。子ども達は日本語で話して下さったことに驚き、改めて台湾の方達の温かさを感じたようでした。

さて滞在中はとにかく宜蘭を満喫しようと一行はバスの中で着替え、羅東夜市観光へ。T 字の形をしていてそれほど範囲は広くないのですが、老若男女が集まり活気いっぱいでした。日本で夜市(夜店)というと季節限定。日本の夏祭りの夜店が年中やっている夜市にぜひ行ってみたいとの子ども達へのリクエストに応えた次第です。

スケジュール満載だった本日、子ども達はさぞ疲れたことだろうと思いきや、疲れているのは大人だけ。宿舎に戻ったメンバーには、童玩藝術節参加チーム対抗の大ゲーム大会が予定されており、撮影班のみ子供たちに同行、残った大人たちは洗濯や衣装干しやおみやげのセットなど、外で楽しむ子ども達の大歓声に驚きながら作業を淡々



参加チーム対抗ゲームで商品をゲットした子ども達

と進めておりました。子ども達が興奮冷めやらぬ状態で部屋に戻ってきたのは、すでに10時を大きくまわっていました。ま、明日は実行委員会がプレゼントとして組んでくださった“遊びの日”。ステージも一日お休みなので、多めに見ることに…。

8月8日（金）

今日は一日観光と遊びとショッピングの日。

まずは白米村で文化体験。日本統治時代に豊かな樹木の資源を生かし、下駄の産業が始まったというこの村で下駄の歴史を学び、大きな下駄を3人で履いて速さを競う、いわゆるムカデ競争のようなゲームや下駄ダンスを楽しみ、様々な下駄を見、実際に作成するという体験をしました。これまでなかなか日本へのおみやげを購入するチャンスがなかった子ども達は、それぞれの思いを込めた文字を刻印した小さな下駄の民芸品を買い求めていました。

地元のレストランで台湾料理を美味しくいただき、蘇澳冷泉へ。先に申し上げたとおり釧路の子は普段水遊びができないので、再び水遊びです。台湾の温泉は有名ですが、実は蘇澳とイタリアにしかないといわれる発泡性の冷泉があるんです。蘇澳冷泉は通年を通して約22℃の炭酸水。真夏に入っても震えるほど冷たいのですが、じっとし



蘇澳冷泉のプールならぬ大浴場でスタッフさんと一緒に

ていると気泡がまとわりついて不思議と暖かくなってくるのだそうです。子ども達も「最初は冷たかったけど、だんだんあったかくなって来た」と言っておりました。

雨が多いこの地には豊富な地下水があり、二酸化炭素を含んだ石灰岩層の下の水は、プレート作用により地表へ湧き出す過程で温度が下がり、気泡を含んだ冷泉ができあがるんだそうです。日本統治時代には冷泉を利用したラムネ工場もあったとか。現在、生産は中止されていますが、昔ながらのラムネ瓶に入ったソーダは売店で購入可能でした。

さて、続いては国立傳統芸術センター。広大な敷地の中に展示館や民芸街などがあり、レトロな建物の中で様々な伝統を味わいながら工芸品を購入することができました。そして本日最後は、宜蘭市内中心にあるデパート Luna Plaza。それぞれ思い思いのお買い物を楽しみました。

今日一日、宜蘭観光に付き合っていたいただいたボランティアスタッフの皆さん。前日の夜市からご一緒に行動していただきましたが、本当にいろいろ助けていただきました。子ども達が宜蘭を楽しめたのは、スタッフさんのおかげと言っても過言ではありません。言葉は通じていないのに、バスでは子ども達とスタッフさん達の話し声が止まることはなく、そして移動中はいつも小さな子とは

手をつないでいていただき、ずっと行動を共にしていただきました。本当にありがたかったです。

8月9日（土）

いよいよ童玩節ステージ最終日。今日は午前と夕方2回公演です。特に夕方のステージは、いままでとは違う大きな舞台で発表させていただけるとのこと。これはこのフェスティバル2回目の参加に敬意を表してとのことでした。子ども達も自ずと力が入ります。満場のお客様の歓声や拍手に応えるべく、これまで以上のパフォーマンスをしてくれました。

プログラム終了後の最終演出は実行委員会からキッズロケットへ、キッズロケットから実行委員会へ記念プレゼント交換と感謝のスピーチのセレモニー。宜蘭県庁文化局副局長の宋隆全氏から参加に対する感謝のスピーチがあり、参加中のポスター、DVD、記念のマグカップ、タイガ族の編み鞆などをいただきました。こちらからは、ますますの幸運を願い「門松」と、記念のボールペン、タンチョウの折り紙などを贈りました。

最後に代表の私から「日本一涼しい北海道釧路市から来たキッズロケットが、連日の猛暑にも負けず最後までこうしてパフォーマンスできたことは、会場の皆様の大きな歓声と拍手のおかげ、皆様からの元気をエネルギーに変えて頑張ることができた。」と感謝を述べ、フェスティバルの益々の発展を祈り、再びの参加を約束して最終ステージを終えました。

さあ、ステージが終わったからと言ってホッとではられません。今晚は日本料理を皆さんに振舞いながら、日本の遊びなどを披露する日本デーです。会場のセッティングからお料理まで、早速準備に取り掛からなくてはなりません。そんな中、滞在中私たちの通訳からスケジュール調整まですべてを引き受けてくれていた男性スタッフ2人が「お願いがある」と神妙な顔で私の前に。



最終ステージを終えて達成感いっぱいのメンバーとお世話になったスタッフさんたち

なんと日本の雰囲気盛り上げるために子ども達がステージで着ていたアイヌの衣装を着たいとの申し出です。もちろん即答でOKでしたが、アイヌ文化に興味を示してくれたこと、本当にうれしく思いました。

テーブルにはおみやげに用意したミニ門松やタンチョウの折り紙、紙風船などをセッティング、会場には日の丸も掲げられ、日本的な空間が作り出されました。メニューは北海道らしくジャガイモとバターをふんだんに使ったイモ団子にラーメンサラダ、具たくさんのになり寿司とちらし寿司、そしてマリモハイボールノンアルコールバージョン。マリモハイボールは、釧路市阿寒湖のまりもをイメージしたグリーンのお酒に、まりもに似せた緑色のゼリーが入ったカクテルです。参加者は未成年者ですから、サイダーをベースにノンアルコールバージョンで提供しました。どれも美味しいと好評で、用意したそれぞれ100人分のお料理はあっという間になくなってしまいました。

食事が済んでもまだまだ楽しい時間は続きます。キッズロケット女子メンバーによるAKB48の『恋するフォーチュンクッキー』や『ヘビーローテーション』のパフォーマンス。これがスタッフさんや会場設営、宿舎の管理をしてくれている地元大学生に大好評。日本語で一緒に歌ってくれたり、大盛り上がりでした。

その後も紙風船や折り紙で参加者と交流を深め、さていよいよおしまいと思った時に、またまた担当の男性スタッフが「帰る準備もあるだろうが、あと30分だけ付き合ったほしい」とリクエスト。それまでは知らなかったのですが、私たちが食事を取ったり、今日のようなイベントを行う宿舎のカフェテリアには、それぞれのチーム担当の2名のスタッフしか入ることができず、昨日の観光にお付き合いいただいた10名ほどのボランティアスタッフはここで食事できないとのことなのです。最後の夜なので、別室でちょっとしたお別れ会をしたいとの申し出に、断るところか涙が出るほど光栄で、もちろん即その申し出に応じた次第です。時間を惜しむようにスタッフと写真をとったり、踊ったり、歌ったり…。最後はみんなで抱き合いながら涙涙のお別れでした。本当にお世話になりました。

8月10日（日）

宜蘭にお別れして、台北へ向かう朝。宿舎の玄関で、運営スタッフさんたちが歌を歌って見送ってくれました。中国語なのでそのとき意味はわかりませんでしたが、あまりに優しいメロディーでお別れがとても悲しくなりました。帰国後に調べましたら、その曲は中山大学附属国光恒久中学卒業ソングの『今年夏天-今年の夏-』という歌で、「今年の夏 希望に満ちた季節 悲しいけれどお別れを言わなければいけない 友情は消えない 私たちの友情は永遠」といった意味の歌詞らしいのです。その歌に涙。そして私たちのバスが校門を出るまで走ってきてくれたスタッフの姿にまた涙。決して皆さんのあたたかい心を忘れません。また会いましょう。

バスは一路台北市立動物園へ。私たちにはまだ任務がありました。開園100周年の台北市立動物園でお祝いのパフォーマンスをすること、そして来園者に釧路のおみやげを配り釧路をPRするこ

と、そして釧路から贈ったタンチョウに会ってくださることです。

動物園には訪台前に贈った私たちの寄せ書きが掲げられていました。さっそくお祝いのパフォーマンスです。台湾でも人気というアニメソングにあわせたダンス、かき踊り、そしてYOSAKOIソーランなど約20分のパフォーマンス。園長さ



恋するフォーチュンクッキーで大盛り上がり



スタッフさんみんなで最後の記念撮影





んはじめ動物園のスタッフの皆さん、そしてその場に集まって下さったたくさんのお客様に大変喜んでいただきました。用意していったおみやげ(くしろ地域の観光パンフレット、丹頂クッキー、ミニ門松など)は、アツという間になくなってしまいました。動物園では、タンチョウのビッグとキカ、パンダにコアラとたくさん動物たちに会ってきました。

さて、台北市立動物園を後にした私たちは、台北市内の観光へ。それほど時間がないと思われ、中正紀念堂と台北 101 の 2 箇所のみ。明日の飛行機が早朝の便ということで、早々にホテルに入りました。

8月11日(月)

あつという間の1週間。充実感いっぱいの1週間。それぞれの心に宝物いっぱいで帰国です。

おわりに

釧路と台湾の各層での交流(特に文化交流)の発展を目的としての訪台でしたが、100%、いえそ

れ以上の達成度と言っても過言ではないと自負しています。

今回の訪台に先立ち、今年6月には釧路市議会において日台友好促進議員連盟が発足、その記念懇親会に台北駐日経済文化代表處札幌分處の陳處長ご夫妻が来釧されました。台北駐日経済文化代表處札幌分處には訪台の準備に多大なご協力をいただいております、その感謝も込めて、キッズロケットは陳處長ご夫妻に、台湾で予定していたパフォーマンスをご披露しました。お二人には大変喜んでいただき、このことがきっかけで10月7日に札幌で開催された台湾建国103年国慶レセプションにお招きいただき、台湾・日本両国国歌斉唱ならびにお祝いのパフォーマンスを披露することになりました。

また、去る10月25日には宜蘭ロータリークラブが釧路市の姉妹クラブを訪問され、その際にも歓迎のパフォーマンスを行いました。宜蘭ロータリークラブの会員のお一人は8月に宜蘭政府でお目にかかった方。子ども達との再会を喜んで下さいました。

初めてパスポートを手にして訪れた外国となった『台湾』への子ども達の思いはいかばかりか計り知れません。成長と共に台湾への思いも大きくなっていくに違いありません。私の知る台湾の方には「たまに日本語を話すことがうれしい」とおっしゃる方もいらっしゃいます。日本が忘れてしまった日本に会える国『台湾』。これからもキッズロケットは日台の小さな親善大使としてお互いの友好促進に向け活動してまいります。